

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:文学部・文学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		大学院等高度副プログラム「グローバル・ジャパン・スタディーズ」の提供科目を21科目に拡充し、さらなる拡充のための体制構築を図るとともに、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の充実のため、多くの授業科目を提供したこと、及びAO入試において、広報活動に尽力し前年度を上回る志願者を獲得したことが評価できる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		大学院高度副プログラム「グローバル・ジャパン・スタディーズ科目」を拡充し、「国際日本研究」コンソーシアムとの共同でGraduate Conference in Japanese Studiesを開催して若手日本研究者の育成に努め、「グローバル・ジャパン・スタディーズ」プログラムの教育実践の周知と教育体制の拡充を図る等、グローバル化に向けた取り組みが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		幅広い評価項目からなる新たな教員業績評価制度を試行し、次年度からの本格実施に向けて、同制度を整備したことが評価できる。また、「文学研究科将来計画WG」を設置し、人文社会科学系戦略会議の「人文系教育研究組織構想検討WG」による報告書について詳しく検討を行う等、大学院教育改革に向けた取組みを行ったことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 博士課程入学定員充足率（博士前期・修士）について、実績を大きく伸ばし、充足させていることが評価できる。 また、常勤教員公募に占める国際公募の割合について、前年度に引き続き、100%を達成していることが評価できる。</p>
